

現代の国際関係と日本の安全保障政策

国際大学学長 北岡 伸一
きた おか しん いち

- *学長をしている国際大学の由来
- *地政学で考える日本の国益
- *21世紀のアジアの時代に必要なこと
- *中国に対する米国の優位は変わらない
- *西太平洋に見る中国の膨張パターン
- *尖閣問題をどう考えるか
- *中国がナショナリズムを利用する理由
- *反日の中国と無知、惰性の日本
- *日本版NSCの役割は何か
- *今、日本の安全保障に必要なこと



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日はたいへんお忙しい中、北岡先生に来ていただきました。ご存じのように安全保障問題、その他ではご活躍されておられます、いろいろな政策にもかかわってこられております。それから、国連代表部におられましたし、世界のいろいろな情勢の中で日本をどうするかということについて、今お呼びするのはたいへん適切な方だというふうに思います。日中、日韓がたいへん厳しい状況の中で、一方的に言葉をぶつけ合うようなことが起きていますが、本当のところはどうなのか。われわれはもう少し冷静に考えなければいけないので、今日はそういうことも含めてきちんとしたお話をお聞きしたいと思います。

それでは先生、よろしくお願いたします。（拍手）

北岡 北岡でございます。お話しする機会をいただいております。ありがとうございます。

もう何年前ですか、私は1987年に書いた本で清沢洌という人物を取り上げました。彼は真つ当な意味のリベラルな外交評論家であり、またヒストリアンであり、石橋湛山の盟友だったわけです。昭和10年代当時、本当に言論弾圧が厳しくなって書けなくなるまで自由主義の論陣を張っていた人たち、石橋湛山、馬場恒吾、清沢洌がそうですが、いよいよ物が書けなくなつた後、清沢が収入源としていたのがこの経済倶楽部の講演なんですよ。講演は自由だったので全国を回って、戦争に対する懸念を盛んに